

名前 () 日づけ (/) できた数 (/27)

使い方 まず書き下し文を声に出して読み、そのあと傍線の番号を手がかりに解きます。**この話の山は「再読文字・受身・不可能」の三つの句法と、その場にいる四人の思惑**です。答え合わせのときは、訳せたかどうかだけでなく、なぜその句法だと分かるかで言えるか確かめてください。

あらすじ＝鴻門の宴席で、范増は玉玦を三度かけ、今こそ沛公を殺せと項王に合図するが、項王は黙ったまま応じない。しびれを切らした范増は項莊を呼び、劍舞にかこつけて沛公を斬れと命じる。項莊が舞い始めると、沛公側に通じていた項伯も立って舞い、身をもって沛公をかばい続けたため、項莊は斬りつけられない。危急を知った張良は軍門にいる樊噲に伝え、樊噲は剣と盾を手に軍門へ踏み込んでいく。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

范増（はんぞう）^①数（しばしば）項王（こうおう）に^②目し、佩（お）ぶる所の玉玦（ぎょつてつ）を挙げて以（もつ）て之（これ）に^③示す者（こと）三たびす。項王^④默然（もくぜん）として応（おう）ぜず。范増起（た）ち、出（い）でて項莊（こうそう）を召（め）し、謂（い）ひて曰（いは）く、「君王（くんおう）^⑤人と為（な）り忍（しの）びず。^⑥若（なんぢ）入（い）りて前（す）みて寿（じゆ）を為（な）し、寿畢（をは）らば、^⑦請（こ）ふ劍を以て舞ひ、因（よ）りて沛公（はいこう）を坐（ざ）に撃（う）ちて、之を殺せ。^⑧不者（しからず）んば、若（なんぢ）の属（ぞく）皆（みな）^⑨且（まさ）に虜（とりこ）とする所と為（な）らんとす。」と。莊則（すなは）ち入りて寿を為す。寿畢（をは）りて曰く、「君王沛公と飲むに、^⑩軍中（ぐんちゆう）以て樂（がく）を為す無し、請ふ劍を以て舞はん。」と。項王曰く、「諾（だく）。」と。項莊劍を抜き起ちて舞ふ。項伯（こうはく）も亦（また）劍を抜き起ちて舞ひ、常に身を以て沛公を^⑪翼蔽（よくへい）す。^⑫莊撃つを得ず。

是（ここ）に於（お）いて張良（ちやうりやう）軍門に至り、樊噲（はんかい）を見る。樊噲曰く、「今日（こんにち）の事^⑬何如（いかん）。」と。良曰く、「甚（はなは）だ急なり。今者（いま）項莊劍を抜きて舞ふ、^⑭其（そ）の意（い）常に沛公に在るなり。」と。噲曰く、「此（こ）れ迫（せま）れり。臣（しん）請ふ入りて、^⑮之と命を同じくせん。」と。噲即（すなは）ち劍を帯（お）び盾（たて）を擁（よう）して軍門に入る。

語注 玉玦＝一部が欠けた輪の形をした玉。腰につける飾り。默然＝黙りこんださま。君王＝主君。ここでは項王（項羽）。寿を為す＝杯をささげて長寿を祝う。宴席のいさつ。若＝おまえ。二人称。属＝仲間・一族。諸＝承知した。よろしい。今者＝いま。たつたいま。臣＝わたくし。臣下がへりくだって用いる自称。ここは沛公の家臣である樊噲が、（主君ではないが）張良に対してへりくだって用いている。※人物＝范増は項羽の参謀。項莊は項羽方の武将。項伯は項羽の叔父だが、張良への恩義から沛公側に通じていた。張良は沛公の参謀。樊噲は沛公の忠臣で勇猛な武将。

A 語句の意味と読み (1～6)

- (1) ①「数(しばしば)」の意味を書け。
- (2) ②「目し」の読みと意味を書け。
- (3) ③の「人と為(な)り」の意味を書け。
- (4) ④「不者(しからず)んば」の意味を書け。
- (5) ⑤「翼蔽(よくへい)す」の意味を書け。
- (6) ⑥「何如(いかん)」の意味を書け。

B 句法 (7～12)

- (7) ③「示す者(こと)三たびす」の「者」はどのような働きをしているか。
- (8) ⑦「請(こ)ふ剣を以て舞ひ」の「請(こ)ふ」はどのような言い方か。
- (9) ⑨の「且(まさ)に…んとす」は何と呼ばれる語か。読み方の決まりとあわせて説明せよ。
- (10) ⑩の「ゝする所と為(な)る」は何の句法か。意味も書け。
- (11) ⑪「軍中(ぐんちゅう)以て楽(がく)を為す無し」の「無以(ゝ) (以てゝ無し)」の意味を書け。
- (12) ⑫「莊撃つを得ず」の「ゝを得ず」は何を表す句法か。意味も書け。

C 主語・指す内容 (13～16)

(13) ⑥「若(なんぢ)入(い)りて」の「若」は誰を指すか。

(14) ⑨とあるが、「虜(とりこ)とする」のは誰(どちら側)か。

(15) ⑭「其(そ)の意(い)」の「其」は誰を指すか。

(16) ⑮「之と命を同じくせん」の「之」は誰を指すか。

D 口語訳 (17～20)

(17) ④「默然(もくぜん)として応(おう)ぜず」を口語訳せよ。

(18) ⑤「人と為(な)り忍(しの)びず」を口語訳せよ。

(19) ⑨「且(まさ)に虜(とりこ)とする所と為(な)らんとす」を口語訳せよ。

(20) ⑭「其(そ)の意(い)常に沛公に在るなり」を口語訳せよ。

E 内容・記述 (21～24)

(21) ③で范増が三度示したものは何か。またそれは項王に何を伝える合図か、説明せよ。

(22) ④から読み取れる項王（項羽）の心情と性格を説明せよ。

(23) ⑪とあるが、項伯がこのようにしたのはなぜか。項伯の立場と、項莊の剣舞をどう見たかの両方にふれて説明せよ。

(24) ⑮から読み取れる樊噲の人物像を説明せよ。

F 文学史・故事 (25～27)

(25) この文章の出典の書名・作者と、その歴史書の体裁（記述の形式）を書け。

(26) 故事成語としての「鴻門の会」は、どのような場面を表すか。

(27) この会見が開かれるまでの、項羽と劉邦（沛公）の関係を簡潔に説明せよ。

【テスト直前チェック】この三つ ①「且に～んとす」は再読文字で「今にも～しようとする」。⑨はそこに受身「為～所…（～する所と為る）」が重なっており、この二つを両方とも訳に出せるかが最頻出です。②「～を得ず」は不可能。⑫「莊撃つを得ず」は字が「不得」で「項莊は撃つことができなかった」。一方⑩「以て樂を為す無し」は字が「無以」で「座興にする手立てがない」。どちらも「～ない」と訳しますが、⑫の「不得（～を得ず）」＝不可能とは別物です。③記述の答えは四人の思惑に集まります。范増＝早く殺せとうながす、項莊＝剣舞にかこつけて狙う、項伯＝身をもってかばう、項王＝決断できない。この四つを一言ずつ言えるようにしておくこと。